

システム導入により動画の記録・管理・保管がスムーズに
スタッフの業務効率化により、患者様への負担も軽減



施設内風景

導入経緯

新病院移転を機に S-VHS から PACS へ

以前は超音波動画の記録管理として S-VHS を使用していましたが、その本数は膨大となり、保管場所の確保や画像劣化、紛失など苦勞が絶えませんでした。3 年前に病院移転が本格化したのを機に、将来的なことを考慮し PACS の導入を決断しました。

導入にあたり、移転と同時にではなく事前にシステムに慣れておくことで、移転した際に現場負担を軽減させることができるのではないかと考え、移転 1 年前に前倒して PACS の導入を行いました。その判断は間違いではなく、機器もシステムも時間差で新しくしたことで、移転後もトラブルなくスムーズな運用を行っています。

選定のポイントは動画の表示スピード・ソフトのレスポンス・レポートシステムとの連動性

導入にあたり、超音波系のメーカーや放射線系のメーカー等、数社の見学を行い選定する中で ①超音波メーカーのシステムは再計測が可能だということ ②処理スピードが高速であるということの 2 点に決定的な違いを感じました。

アストロステージの PACS は高いシステムパフォーマンスを備え、循環器系の動画部分の開発も当院が思い描いていたシステムに近く、共に開発出来る可能性を強く感じ導入を決断しました。実際、納品前段階で開発者と何度もヒアリングを重ね、予想していたよりも短期間で思い描いていた計測ツールを完成されたことには大変驚きました。

導入段階では、撮影画像容量の大きさ、院内ネットワークの回線速度等の問題により PACS 側で動画画像を読み込むまでに時間が掛かる、PACS 側での動画表示速度と機器側での動画表示速度に差異が発生する等、導入時に判明した問題点をどのように改善するかが課題でした。しかし、この問題はアストロステージ側でのソフトの最適化、病院側での院内ネットワークの改善、超音波動画撮影時の画像圧縮度の最適化等、双方の創意工夫により改善することでスムーズなファイリングシステムの運用を実現することができました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- RIS システム **NazcaRIS**

導入効果

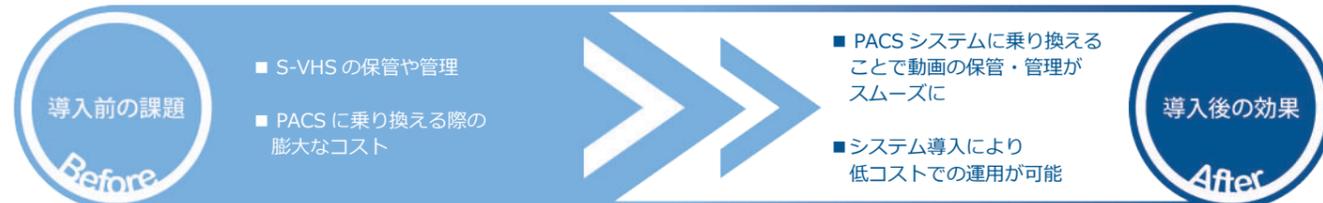
フィルムレス運用でコストダウンが可能になり
患者の診察もスピーディに

導入以前は、超音波動画を S-VHS で確認しながら所見を記入していましたが、導入後は S-VHS 当時には困難だった過去画像との比較が可能になり、所見の記入も容易になりました。データを送信し、画像を見ながら空き時間に所見を記入出来る点も大変助かっています。

患者様と一緒に動画を見ながら検査結果を参照でき、該当箇所を拡大してピンポイントで説明できる点や、検査後 15 分程度で出せる事で時間短縮にも繋がり、患者様からも大変高い評価を頂いています。



臨床検査部技師長 工学博士 種村正氏



心臓血管研究所付属病院：システム導入時期 / Feb 2010



心臓血管研究所は、循環器疾患の研究機関として昭和 34 年に設立されました。臨床の場である心臓血管研究所付属病院は昭和 37 年に循環器疾患の専門病院として誕生し、救急医療から機能回復、予防まで広い範囲に対応できる体制を整えてきました。

循環器疾患、特に狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患や動脈解離などでは、発症から治療までの時間が治療効果に大きく影響します。当院では皆様の生命を守るため、各部門が 24 時間迅速に診断と治療を行える能力と体制を維持しています。

健康的な日常生活を過ごし、循環器疾患の再発を防ぐためには、それぞれの方に合ったリハビリテーションや栄養指導などを行うことも重要です。入院・外来を通じて均整のとれた適切な診療と予防を行うためには、一部の部門が突出しているのではなく全ての部門に高度な診断と治療を行う力がなければなりません。私たちは循環器疾患の方々には健康な生活を送っていただけるよう、各部門に熟練した専任のスタッフを配し、研鑽を怠ることなく高い医療水準を維持しています。

医学は日々進歩しています。私たちは皆様にご信頼いただき、皆様のお役に立てる医療をご提供できるよう高い医療レベルを維持する努力を続けるとともに、日々自省を怠らず精進を続けてまいります。

所在地：東京都港区西麻布 3-2-19

病床数：74 床

診療科：循環器内科・心臓血管外科・心臓リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

今後の方針

当院は港区の循環器専門病院なので港区の医師会を始め、近隣病院と連携しながら、循環器専門病院としての役割を担っていきたく思います。また、研究所として患者様のデータを元に循環器の臨床研究で世の中に役立ち、臨床医学に立脚した研究を推進し、最良の医療を提供していきます。

今後の期待・要望

超音波計測ツールのさらなる発展とともに、より多くの医療施設への展開を期待します。



検査風景

システム構成図

